

環境

たまき

vol.56



環境保全に関するポスターコンクール
小学生高学年 最優秀作品

目次

- 『長野県地球温暖化防止県民大会』を開催しました……………2
- 長野県内の2007年度(平成19年度)温室効果ガス排出量について
● 信州リサイクル認定製品に新たな製品が加わりました……………3
- 「信州リサイクル認定製品」のブログ開設しています！……………3
- 食べ残しを減らそう県民運動 信州「エコ・クッキング」実施レポート……………4

エコドライブを始めましょう！

長野県では、エコドライブ教習会や出前講座などを行い、積極的にエコドライブを推進しています。地球にもお財布にもやさしく、安全運転にもつながるエコドライブを、ぜひ実践しましょう。

【ホームページ】 <http://www.pref.nagano.lg.jp/kankyo/kansei/ecodrive/index.htm>



『長野県地球温暖化防止県民大会』を開催しました

長野県地球温暖化防止活動推進センターと長野県は、県民の皆様の温暖化防止活動をより一層促進するため、長野県地球温暖化防止県民大会を2月5日（土）に長野市生涯学習センター大学習室（トイゴウエスト4階）で開催しました。

また、トイゴ前広場では、「信州木質バイオマス展inトイゴ」を同時開催し、薪ストーブ・ペレットストーブの展示や薪を使った料理体験などを行いました。

県民大会では、まず「私たちの減CO₂アクション」と題して、平成20年度から実施している「減CO₂アクションキャンペーン」に参加した代表の2チームの皆さんに、日ごろの活動内容を発表していただきました。

はじめに、スクール部門として、長野県白田高等学校の皆さんに、絶滅危惧種であるオオアカウキクサの保護と活用について、地元の農家や関係団体などと連携して取り組んでいる様子を発表していただきました。

続いて、松本市消費者の会の皆さんに、本県の多くの家庭に設置されている「凍結防止帯」について、そのエネルギー使用量の実態や省エネの手法など、独自に調査された結果などもふまえて、参加者の皆様へ伝えていただきました。



また、全国に先駆けて県内で取り組まれている木質バイオマスを活用したカーボンオフセット制度について、その概要と利用者の声などを説明していただきました。

その後、休憩を挟み、フリーパーソナリティとしてお馴染みの武田徹さんと、県で推進している「ふるさと信州・環の住まい」の普及推進協議会会員であり、株式会社フォレストコーポレーション代表取締役社長である小澤 仁さんのお方による、「信州の森を活かしてSTOP温暖化」と題したトークショーを行いました。

信州の森林の現状や、薪ストーブをはじめとした森林資源の活用方法、また信州型エコ住宅「ふるさと信州・環の住まい」の紹介など、信州の森林をテーマに様々な角度からお話をいただきました。

当日は、県民大会には約120名の方が、「信州木質バイオマス展inトイゴ」には約300名の方がご来場いただきました。ありがとうございました。

長野県内の2007年度（平成19年度）温室効果ガス排出量について

	1990年度	2006年度	2007年度			
			対前年度比	90年度比		
二酸化炭素	産業部門	4,201	4,290	4,473	+4.3%	+6.5%
	家庭部門	2,317	3,146	3,179	+1.0%	+37.2%
	業務部門	2,578	3,920	3,890	-0.8%	+50.9%
	運輸部門	3,870	4,568	4,437	-2.9%	+14.7%
	廃棄物部門	154	177	173	-2.3%	+12.3%
	エネルギー転換	6	3	2	-33.3%	-66.7%
小計	13,126	16,104	16,154	+0.3%	+23.1%	
二酸化炭素以外	CH ₄	432	283	278	-1.8%	-35.6%
	N ₂ O	688	544	519	-4.6%	-24.6%
	HFCs	99	168	93	-44.6%	-6.1%
	PFCS	355	146	145	-0.7%	-59.2%
	SF ₆	611	77	70	-9.1%	-88.5%
	小計	2,185	1,218	1,105	-9.3%	-49.4%
温室効果ガス総排出量	15,311	17,322	17,259	-0.4%	+12.7%	

（単位：千トン）

長野県環境部では、県内の2007年度（平成19年度）の温室効果ガス排出量を「都道府県別エネルギー消費統計（経済産業省）」などの統計資料をもとに推計しました。

2007年度の総排出量は、1725万9千トンで、2006年度と比べると0.4%の減少、1990年度と比べると12.7%の増加となっています。その中でも、業務部門、家庭部門の排出量が伸びており、業務部門は、1990年度と比べると約51%の増加となっています。

県では、長野県地球温暖化防止県民計画（改訂版）で、「2012年度までに温室効果ガス排出量を基準年（1990年）度比6%削減する」という目標を掲げており、県民・事業者・行政が連携して、より一層取組みを強化することが求められています。

是非、皆様ご自身の生活についても、もう一度見直していただき、ご家庭や職場、学校などで取り組める「省エネ・エコ活動」を進めてくださいますようお願いいたします。

【お問い合わせ】長野県環境部環境政策課温暖化防止係 電話：026-235-7022



信州リサイクル認定製品に新たな製品が加わりました

限りある資源の有効な利用を促進し、環境への負荷の少ない持続可能な社会の実現に寄与する目的で創設された「信州リサイクル製品認定制度」において、以下の製品が新たに認定されました。平成22年度末現在の総認定数は60製品となりました。認定製品については、県で率先利用に努めるとともに、広く利用拡大を呼びかけてまいります。

信州リサイクル製品認定制度の概要や認定基準、認定製品等については、下記のホームページをご覧ください。

<http://www.pref.nagano.lg.jp/kankyo/haiki/recycle/index.htm>

【お問い合わせ】長野県環境部廃棄物対策課資源化推進係 電話:026-235-7181

申請者名称・住所	製品名 製品・資材の区分	製品の概要
(株)ミツルヤ製作所 (松本市笹賀5652-33)	リポスファニーチャー リサイクル製品 (1016)	使用済みの食品トレーや発泡スチロール等を再利用したプラスチック製オーダー家具。
(株)亀山 (上田市上田原752-6)	Rテコラ リサイクル製品 (1017)	廃瓦を再利用した防草材、調湿材、ガーデニング材。
(株)シーピーアール (飯山市大字寿50)	アルパレット リサイクル製品 (1018)	廃プラスチック内に含まれるポリエチレン、ポリプロピレンを再利用したプラスチック製パレット。
エコトピア飯田(株) (飯山市上郷黒田366-1)	エコファイン リサイクル製品 (1019)	回収新聞古紙を再利用した汚泥脱水用ろ過助剤。
(有)吉越商事 (飯山市大字瑞穂4180-6)	RC-40 リサイクル資材 (202018) (再生路盤材)	コンクリートガラを破碎し粒度調整した再生路盤材。
清水口建設(株) (松本市大字島内1666)	RC40 リサイクル資材 (202019) (再生路盤材)	コンクリートガラ、アスファルトコンクリートガラを破碎し粒度調整した再生路盤材。
	RM25 リサイクル資材 (202020) (再生路盤材)	コンクリートガラ、アスファルトコンクリートガラを破碎し粒度調整した再生路盤材。
(株)イーエムシー (長野市北条町3-14)	ウッドフォーム リサイクル製品 (1020)	コンクリート構造物作成時に使用する間伐材利用の丸太残存型枠。
(有)徳装 (上田市吉田311-1)	リポスデッキ リサイクル製品 (1021)	使用済みの食品トレーや発泡スチロール等を再利用したプラスチック製デッキ。
豊田興産(株) (長野市大字北長池1951-2)	ECOパール リサイクル製品 (1022)	廃プラスチック内に含まれるポリエチレン、ポリプロピレンを再利用したプラスチック製医療廃棄物収納容器。
(株)マルモリ宮坂土木 (岡谷市大栄町1-7-11)	RC40-0 リサイクル資材 (202021) (再生路盤材)	コンクリートガラを破碎し粒度調整した再生路盤材。
(株)小海アスコンリサイクルプラント (南佐久郡小海町大字豊里2323)	RC-40 リサイクル資材 (202022) (再生路盤材)	コンクリートガラ、アスファルトコンクリートガラを破碎し粒度調整した再生路盤材。

「信州リサイクル認定製品」のブログ 開設しています!!



信州リサイクル製品を、県民や事業者の皆さんへもっと知っていただき、広く普及を進めるため、「地球にやさしい信州リサイクル認定製品」と題し、平成22年1月からブログを開設しています。皆さんからのご意見やご感想をお待ちしております。

*長野県魅力発信ブログ「地球にやさしい信州リサイクル認定製品」

<http://recycle.nagano-ken.jp/> (長野県公式HPからもご覧いただけます。)

【ブログに関するお問い合わせ】

長野県環境部廃棄物対策課資源化推進係 電話:026-235-7181

食べ残しを減らそう県民運動

信州「エコ・クッキング」実施レポート

食べ残しを減らそう県民運動

目印のシールです→



平成22年6月にスタート！食品残さ（生ごみ）の発生抑制を図るため、事業者（飲食店、宿泊施設）に対する協力店の募集を行うとともに、家庭や学校において食べ残し等を減らす取組の実践を促進しています。

☆食べ残しを減らそう協力店について

協力店（飲食店、宿泊施設）では、食べ残しによる生ごみを減らすために、小盛りメニューの導入、持ち帰り希望者への対応、呼びかけなどを行います。

☆家庭や学校への啓発について

信州環境フェアや県庁こども見学などで呼びかけを行っています。ここでは、「エコ・クッキング」講座について詳細にレポートします。22年11月～23年3月に、生ごみ減量化のための知識と技術を学ぶための家庭普及事業として、信州「エコ・クッキング」を県下全域で30回開催しました。家庭から出る生ごみは、多い順に、「調理くず」「食べ残し」「直接廃棄」です。環境のことを考えて、買い物ーお料理ー片づけをすることで、これらの生ごみをグッと減らせます。



① ナビゲーターさんから「エコ・クッキング」のポイントについて説明を受けます。買物をする前には冷蔵庫の在庫をチェックするとごみが45%も減るなど、台所にはエコなポイントがたくさんあります。



② ナビゲーターさんが食材を無駄にしないための野菜の切り方をお手本でやってみせます。参加者の熱心な視線が集まります。



③ 出た野菜くずは、左から、人参・小松菜・たまねぎ・にんにく。捨てる部分はたったこれだけです。



④ 分量として料理の中に入れる水はただ入れるのではなく、トマトジュースの缶をゆすぎながら、おろし器に付いた人参のカスも洗いながら、料理の中へ。目からうろこの鮮やかなエコです。



⑤ 生ごみはぬらすと重くなり、生ごみを通った排水は汚れるため、三角コーナーは使いません。野菜くずは広告紙で作ったゴミ箱へ入れます。3品、5人分が出たゴミの重さはわずか50グラム前後です。



⑥ 洗いは、まず古布で食器の汚れをふき取ってから、ため水で洗います。洗剤も決まった量だけ使います。蛇口の水は指1本ほどで十分です。

参加者の感想から

料理は毎日することなので、実践できれば生ごみの減量効果は大きい。

子供たちへも教えてあげたい。

☆3つのキーワード

これから時代を背負っていく若い奥さんたちに参加してほしい。

家庭ごみの中で生ごみが一番多いことを知らなかった、驚いた。

「店では買すぎない」
「家では作りすぎない」
「店では頼みすぎない」



冷蔵庫すっきりメニュー

- ・いろいろ入れてドライカレー
- ・イタリアン卵スープ
- ・キャロットオレンジ寒天